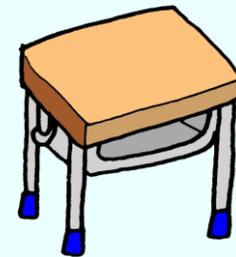




大 山 地 域



市立小・中学校の
将来のあり方について

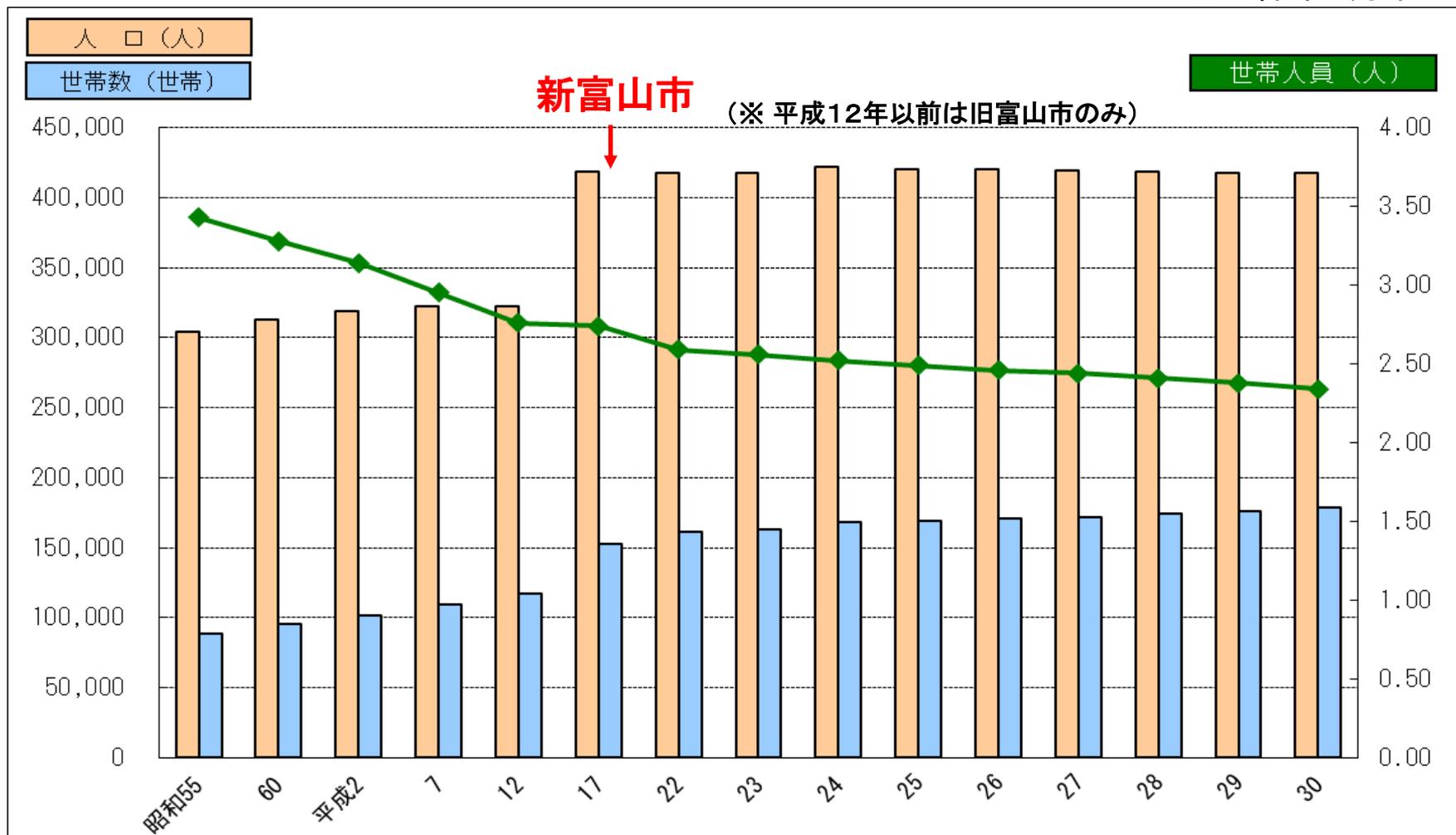


富山市教育委員会

1 富山市全体の状況

(1) 人口の推移

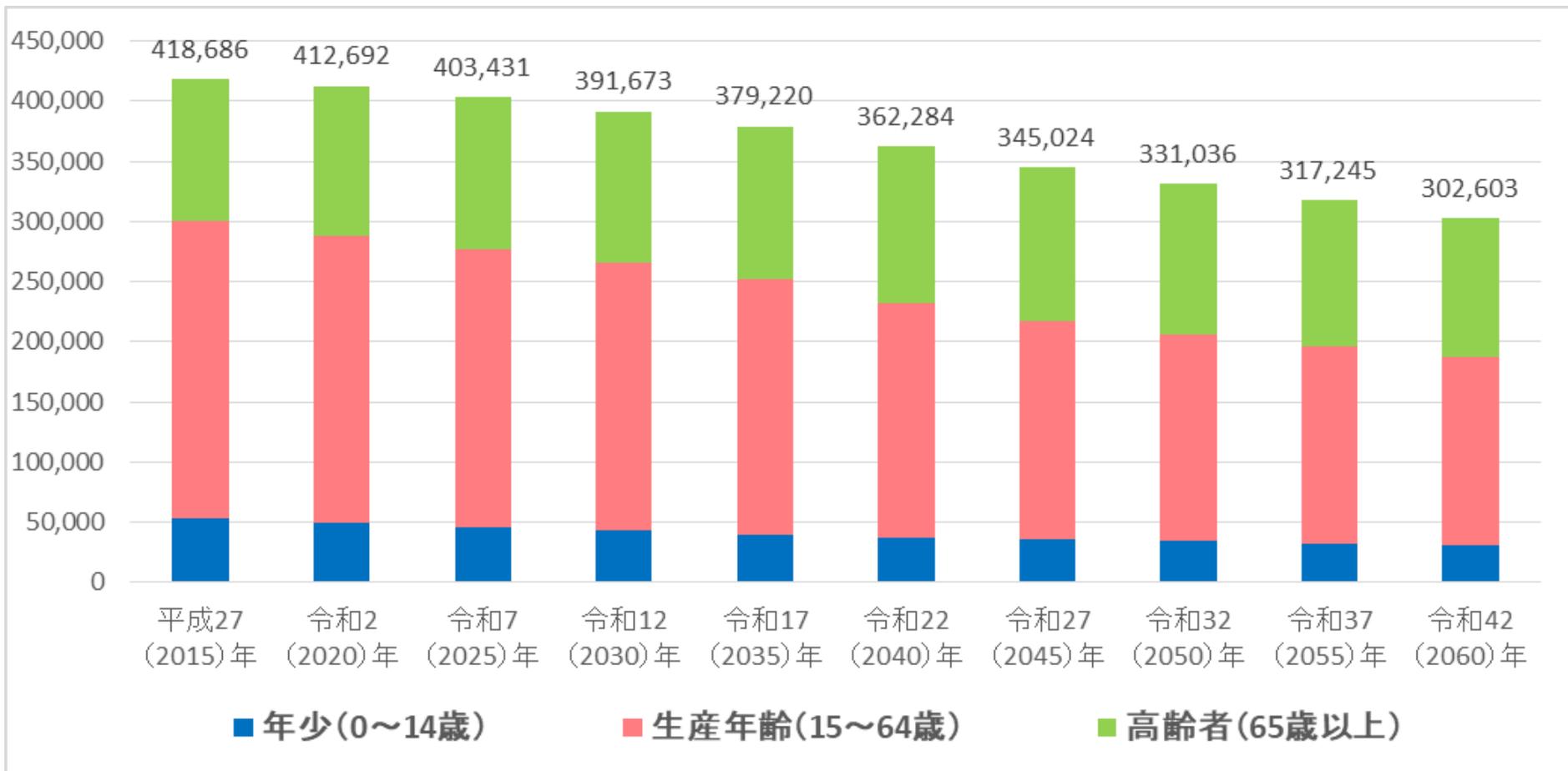
※ 各年9月末



1 富山市全体の状況

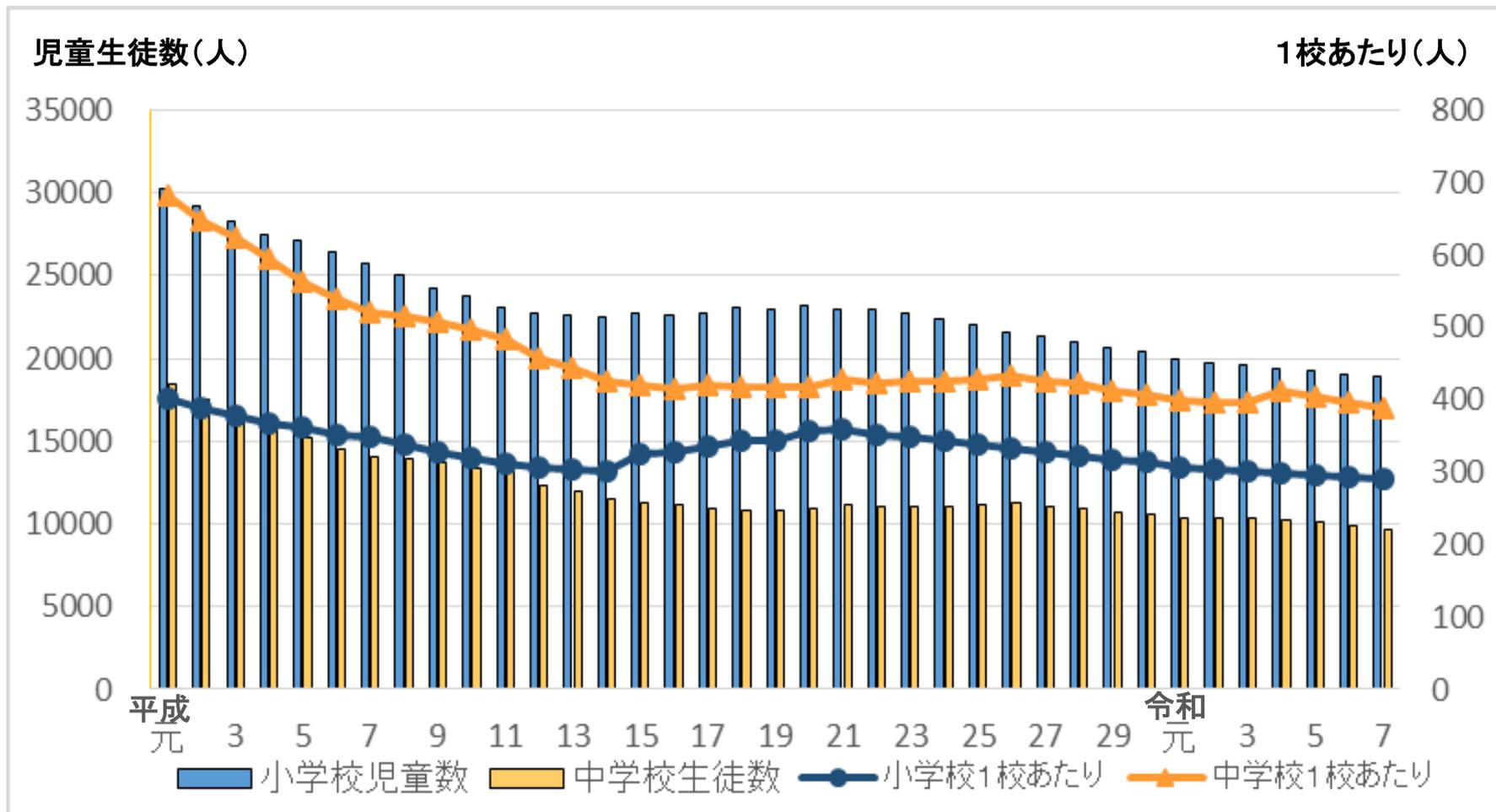
(1) 人口の推移

人口(人)



1 富山市全体の状況

(2) 市立小・中学校の児童生徒数の推移



1 富山市全体の状況

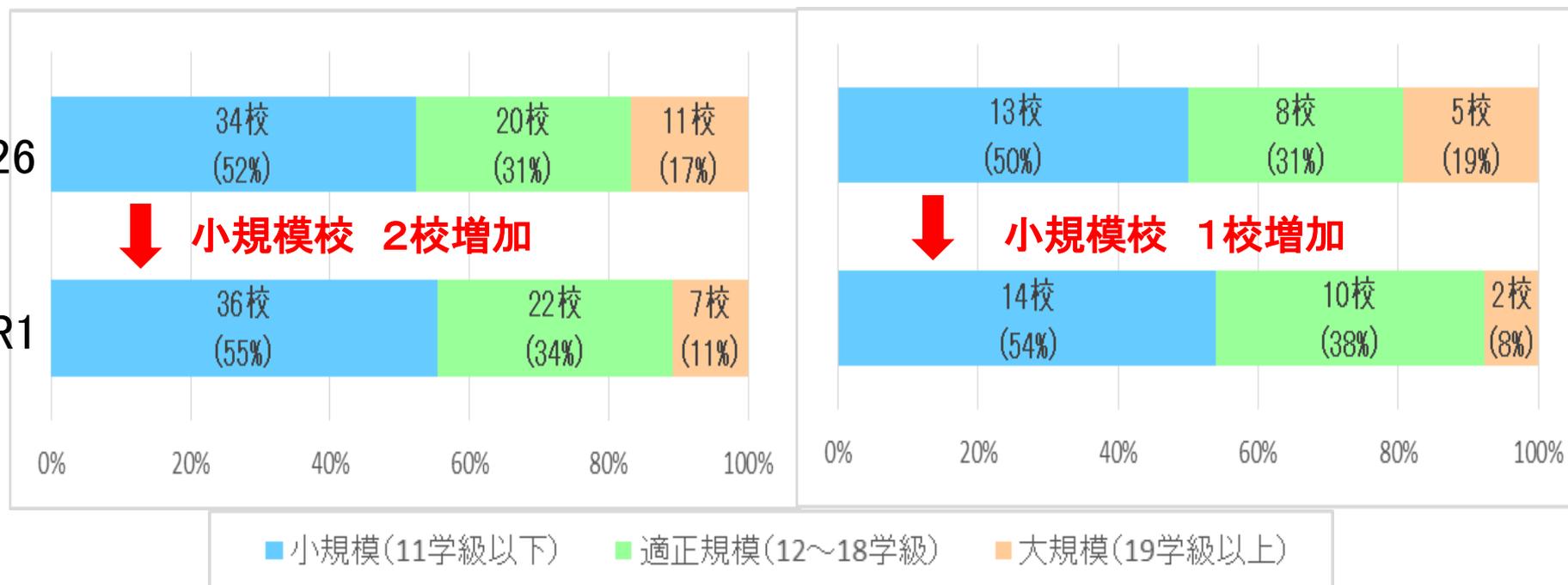
(3) 市立小・中学校の学校規模

標準（適正規模）：1校あたり12～18学級

(※学校教育法施行規則)

小学校

中学校

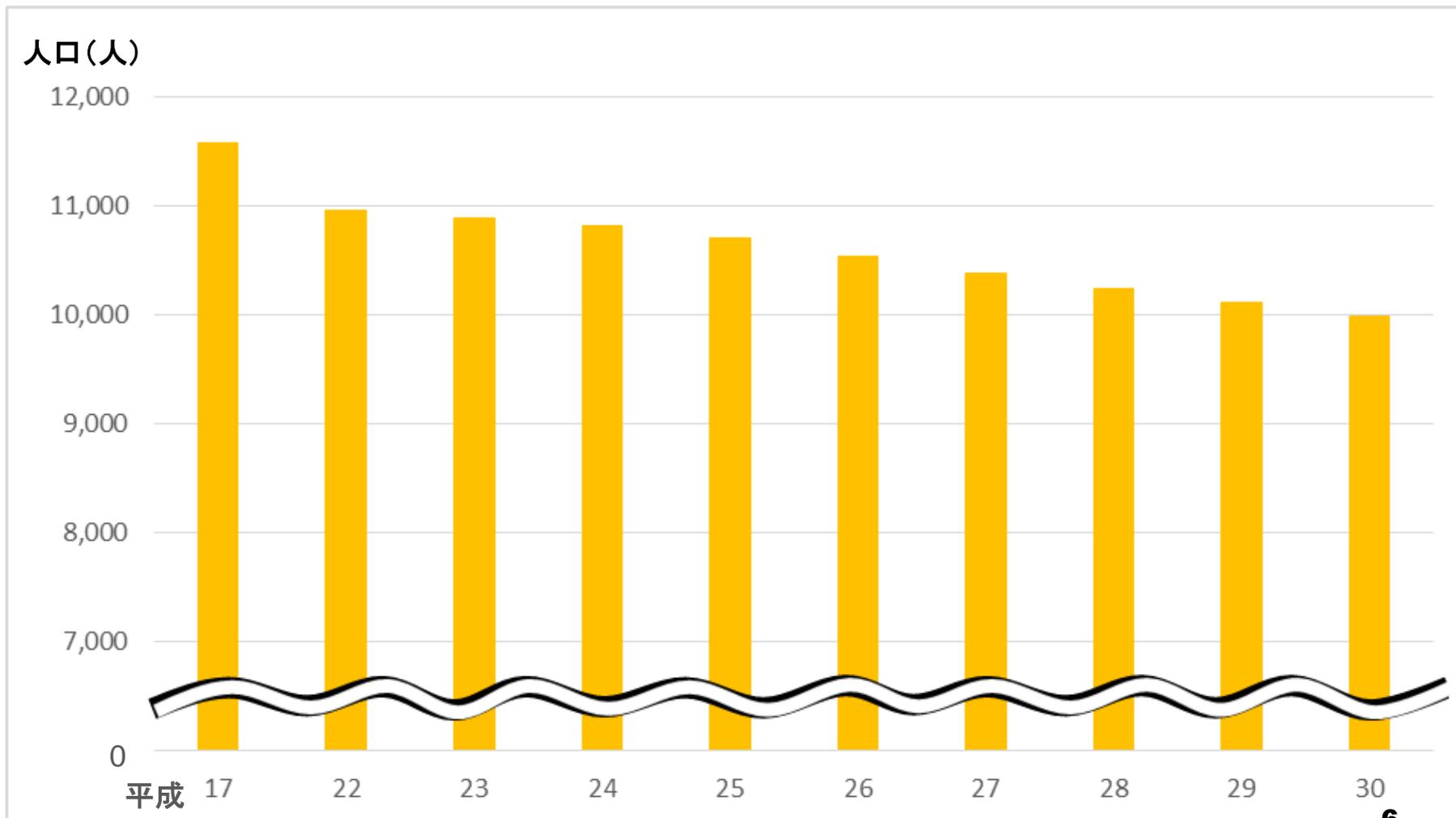


市立小・中学校の5割以上が小規模校

2大山地域の状況

(1) 人口の推移

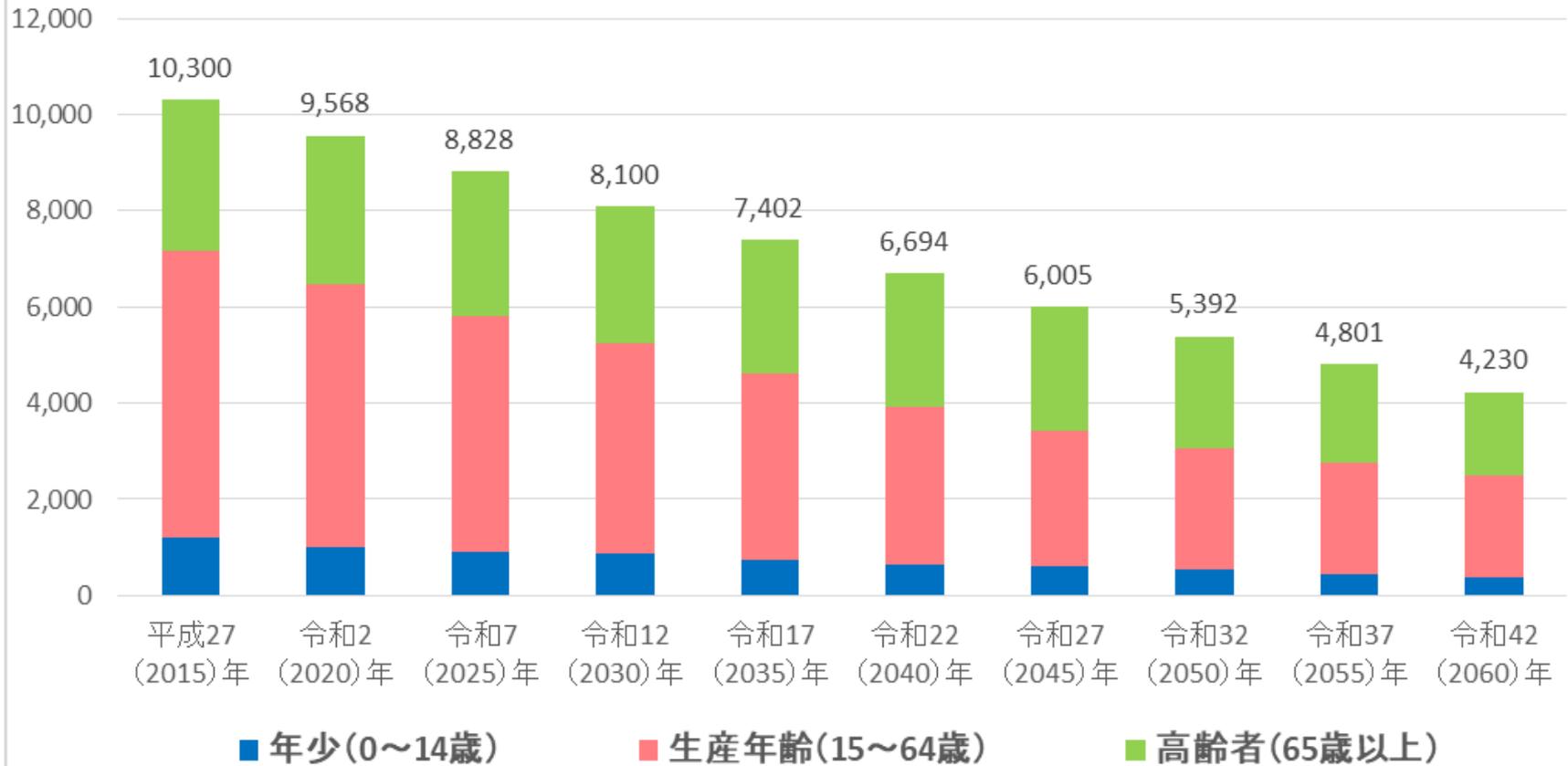
※ 各年9月末



2大山地域の状況

(1) 人口の推移

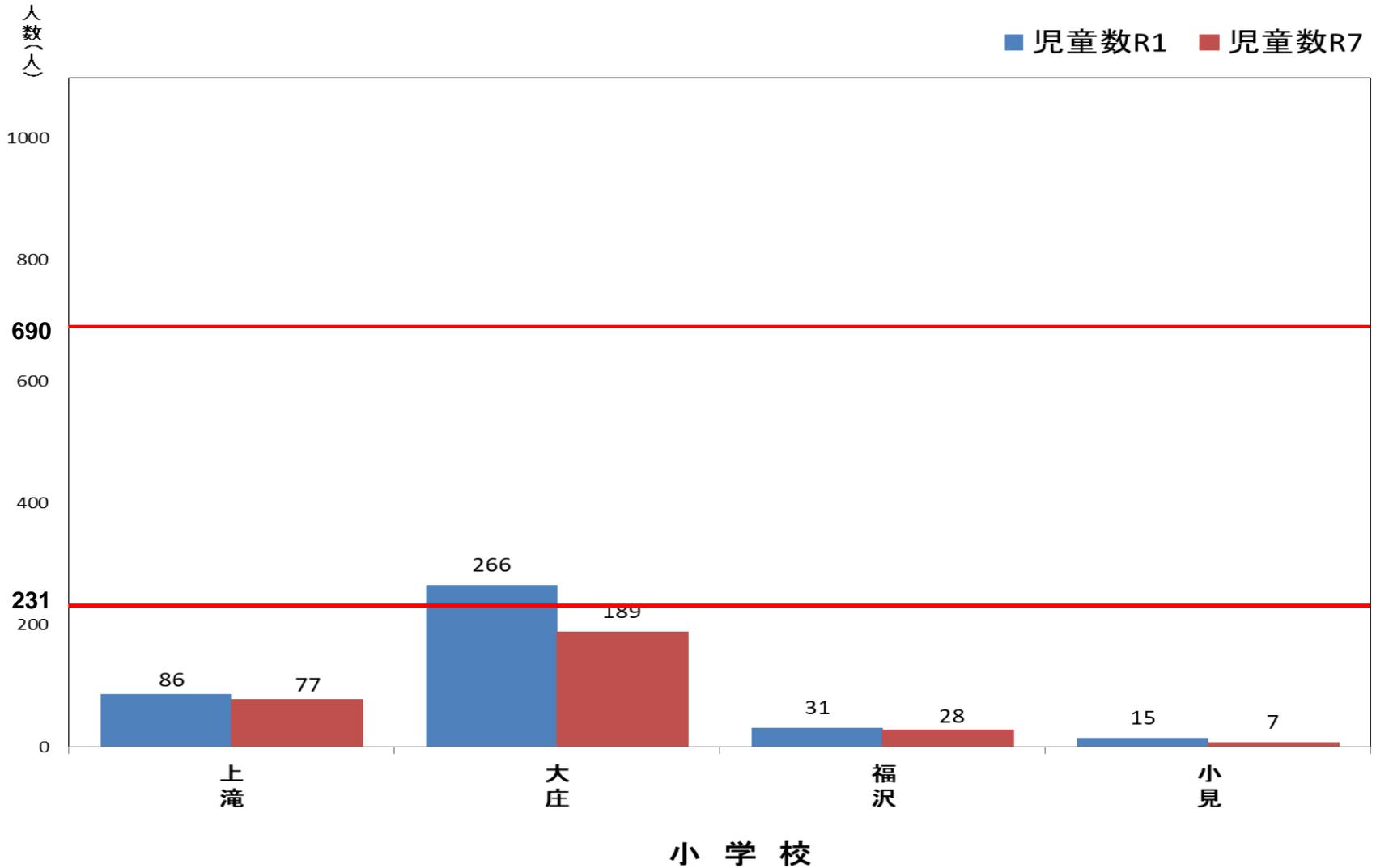
人口(人)



※「富山市公共施設マネジメント アクションプラン戦略編」の人口推計を基に作成

2大山地域の状況

(2) 児童生徒数の推移(見込み)

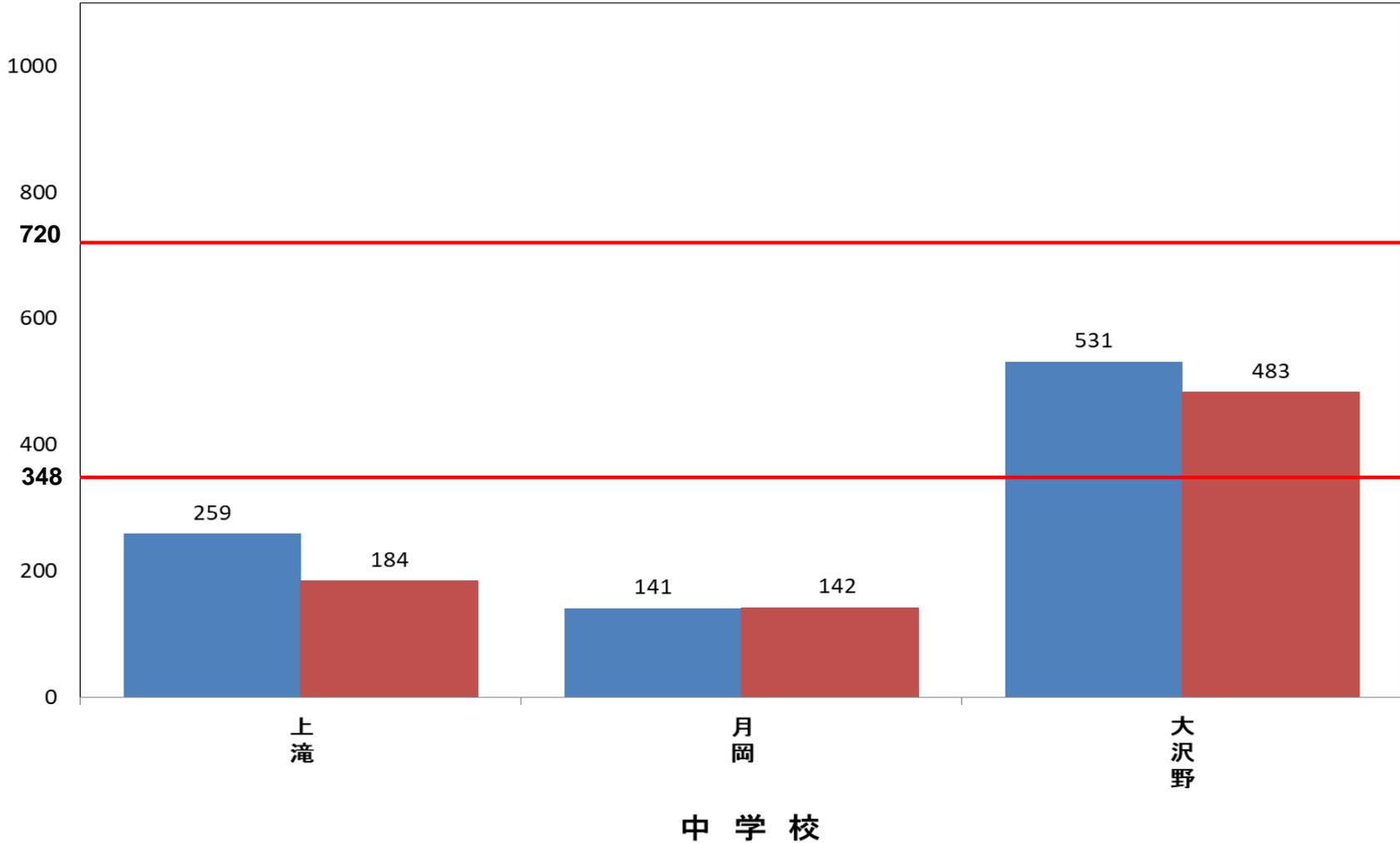


2大山地域の状況

(2) 児童生徒数の推移(見込み)

人数(人)

■ 生徒数R1 ■ 生徒数R7

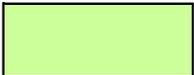


2 大山地域の状況

(3) 学校規模の推移(見込み)

児童数(人)

小学校	年度	学級数	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
上滝小	R 1	6	13	20	14	15	10	14	86
	R 7	6	10	13	13	18	15	8	77
大庄小	R 1	11	47	37	29	46	55	52	266
	R 7	6	23	33	31	27	39	36	189
福沢小	R 1	4	5	6	7	6	6	1	31
	R 7	4	2	7	6	8	3	2	28
小見小	R 1	3	1	2	3	3	3	3	15
	R 7	3	1		1	2		3	7

 適正規模 (12~18学級)

 複式学級

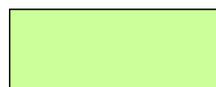
 小規模 (11学級以下)

2大山地域の状況

(3) 学校規模の推移(見込み)

生徒数(人)

中学校	年度	学級数	1年生	2年生	3年生	合計
上滝中	R 1	7	79	78	102	259
	R 7	6	67	64	53	184
月岡中	R 1	5	49	51	41	141
	R 7	6	43	44	55	142
大沢野中	R 1	14	156	174	201	531
	R 7	14	147	151	185	483



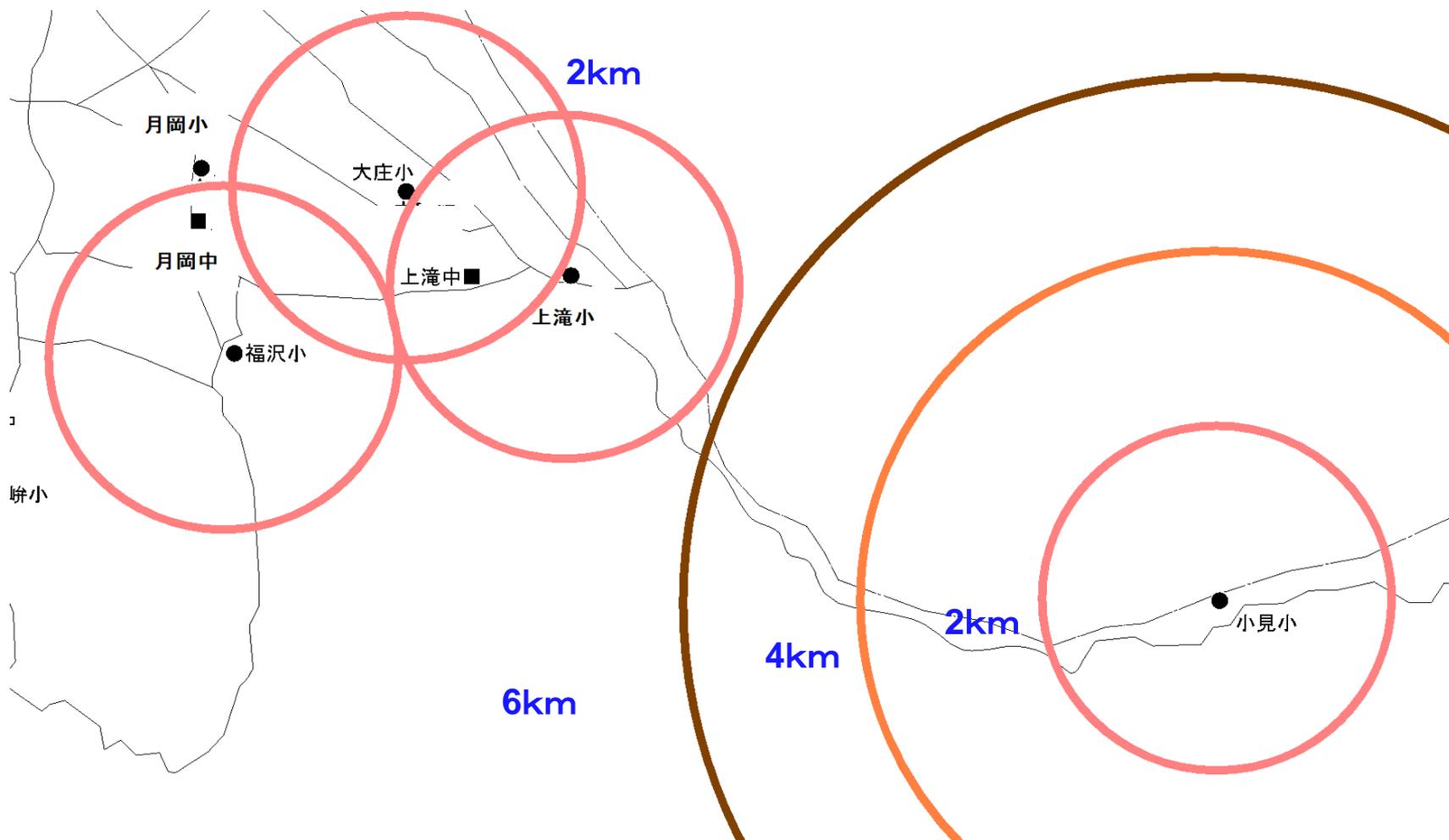
適正規模 (12~18学級)



小規模 (11学級以下)

2大山地域の状況

(4) 学校の位置



2大山地域の状況

(5) 学校の沿革(建物状況)

上滝小

H28 校舎大規模改造1期工事(管理棟)
H29 校舎大規模改造2期工事(学習棟)
R1 校舎大規模改造3期工事(ふれあい棟)

大庄小

S62 校舎改築、教室棟・管理棟、体育館棟完成
H16 校舎増改築竣工

福沢小

S60 校舎棟、体育館完成
H26 小見小学校との交流学習を開始

小見小

S58 新校舎(教室棟)、体育館完成
H26 福沢小学校との交流学習を開始

2大山地域の状況

(5) 学校の沿革(建物状況)

上滝中学校

S50 新校舎竣工



R1 校舎改築事業
屋内運動場建設事業 実施設計

3 小規模校における教育

(1) 小規模校のよさ

- 一人ひとりの子どもに対して、きめ細かな指導ができる。
- 学校行事で子どもたちの活躍の場が多い。
- 他学年や地域の方と交流活動がしやすく、親交を深められる

3 小規模校における教育

(2) 小規模校の課題

小・中学校共通

- クラス替えがないため、多様な考えに触れる機会や、社会性や規範意識を身につける機会が得られにくい。
- 体育のバスケットボール等の団体競技や音楽の合唱等が行いにくい。
- 経験年数、専門性、男女比など、教員をバランスよく配置できない。

3 小規模校における教育

(2) 小規模校の課題

小学校

- 複式学級となる場合には、教員が複数学年分の指導準備を行うこととなり、各学年へのきめ細かい指導が行いにくい。
- 教務主任が学級担任を兼務するなど、一人の教員にかかる負担が大きくなる。

中学校

- 9教科10科目すべての教員がそろわず、一部の教員が専門以外の教科の授業を行わなくてはならない。

※ 教科担当教員の配置 1校3学級→6人

⇒ 9教科10科目の対応が難しい

- 開設できる部活動の数に制約が生じる。

4 適正規模、適正配置に向けた取り組み

(1) 小規模校

- ① 学校の統合
- ② 学校選択制の導入
- ③ 小規模特認校制（小見小）
- ④ 通学区域の見直し

(2) 大規模校

- ① 学校の分離
- ② 施設の増築
- ③ 通学区域の見直し

5 学校規模に起因する デメリット緩和に向けた手段

(1) 小規模校

- ① 教員の加配置や複数校兼務
- ② 小中一貫教育、義務教育学校
- ③ ICT機器の活用

(2) 大規模校

- ① 教員の加配置

おわりに



児童生徒数の減少に伴い、学校の統廃合は将来的に避けて通れない大きな課題です。

学校の標準規模化を図るなど、次代を担う子どもたちにとって、地域・保護者・教育委員会が一体となって、よりよい教育環境となるよう考えていく必要があります。

